

データ利活用等のデジタル化の推進による社会課題・地域課題解決のための実証型研究開発（第2回）

鶏舎環境モニタリングコントロールシステムの実証型研究開発

研究概要： 養鶏業における生産性の向上、就労環境の改善等を図り、通信条件不利地域でも使用可能な「鶏舎環境モニタリングコントロールシステム」の提供を目指す。システムは、事業終了後3年程度での社会実装を目標に、①鶏舎内環境に起因する斃死数（突然死する鶏の数）予測技術による環境制御機構、②臭気、集塵センサ技術開発、誘導性ナノ秒パルス電源と一体化した革新的な高効率ガス処理集塵装置、③マルチホップWi-Fi技術を用いた無線通信エリアの構築に係る研究開発、実証を行う。



鶏舎環境モニタリングコントロールシステムのイメージ

【研究開発期間】 令和5年度から令和7年度まで

【受託者】 国立大学法人岩手大学（代表研究者）、アルプスアルパイン株式会社、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社、株式会社中嶋製作所、国立大学法人九州大学